

| | | | | | | | | | |
|-------------------------|---|---------|-----------------------|----------|-----|----------|-----|--------|-----|
| 1. 科目名 (単位数) | 社会言語学 (2 単位) | 3. 科目番号 | EJJP2344 EIJP2144 | | | | | | |
| 2. 授業担当教員 | 山口 雅代 | | | | | | | | |
| 4. 授業形態 | 講義、グループ討議、発表等 | 5. 開講学期 | 春期 | | | | | | |
| 6. 履修条件・他科目との関係 | | | | | | | | | |
| 7. 講義概要 | 社会言語学とは、社会の中で言語がどのように使用されているかに関し理解を深める学問である。具体的には社会の中の性差、地域差、世代差などによる言語の運用について日本語を対象にしながら学んでいく。すなわち本講義は、日本語教育に必要な日本語の運用規則を理解するとともに、言語教育に携わる上での言語観を養うための基礎的科目といえる。日本語母語話者が無意識に行っている言語活動を「社会」という観点から見つめ直すことで、日本語の多様性および日本語の運用規則を理解する。 | | | | | | | | |
| 8. 学習目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会言語学の研究領域と研究対象を含む基礎的考え方を理解する。 2. 日本社会における言語使用の多様性について性差、地域差、世代差を対象としながら具体的に理解する。 3. 日本社会において日本語の会話構造を理解する。 4. 日本語教育における社会言語学の意義について理解する。 | | | | | | | | |
| 9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回授業の始めに与えられた課題の発表で、内容導入を行う。 2. 毎回授業の終わりにワークシートを利用し、学習内容を確認する。 3. 発表する社会言語学に関するテーマを 10 回目の授業において決め、方向性の確認後、発表を行う。その後、発表会での議論・コメントを踏まえ、自分の研究成果を最終レポートにまとめる。 | | | | | | | | |
| 10. 教科書・参考書・教材 | <p>【教科書】高見沢孟監修『新・はじめての日本語教育 1』アスク、2016。</p> <p>【参考書】荒川洋平『日本語教育のスタートライン』スリーエーネットワーク、2019。 石黒圭著『日本語は『空気』が決める—社会言語学入門』光文社新書、2013。 町田健・榎山洋介『よくわかる言語学入門 解説と演習』バベルプレス、1995。 高見澤他『新・はじめての日本語教育 1』アスク出版、2016。 など。</p> | | | | | | | | |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法 | <p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会言語学の研究領域と研究対象を含む基礎的考え方を理解できたか。 2. 日本社会における言語使用の多様性について性差、地域差、世代差を対象としながら具体的に理解できたか。 3. 日本社会において位相による日本語の運用規則を理解できたか。 4. 日本語教育における社会言語学の意義について理解できたか。 <p>○評定の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>授業への参加態度</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>授業ごとの提出物</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>期末レポート</td> <td>40%</td> </tr> </table> <p>なお、本学規定により3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p> | | | 授業への参加態度 | 30% | 授業ごとの提出物 | 30% | 期末レポート | 40% |
| 授業への参加態度 | 30% | | | | | | | | |
| 授業ごとの提出物 | 30% | | | | | | | | |
| 期末レポート | 40% | | | | | | | | |
| 12. 受講生へのメッセージ | 社会言語学とは、どのようなことを研究する学問なのか、知識を深め、自国の社会でどのような現象があるのか、分析できる力をつけよう。 | | | | | | | | |
| 13. オフィスアワー | 第1回の講義の際に指示をする。 | | | | | | | | |
| 14. 授業展開及び授業内容 | | | | | | | | | |
| 講義日程 | 授業内容 | 学習課題 | | | | | | | |
| 第1回 | オリエンテーション (授業概要の説明、自己紹介) | 事前学習 | 社会言語学とはどのような学問なのか考える。 | | | | | | |
| | | 事後学習 | ワークシートに記入する。 | | | | | | |
| 第2回 | 1 社会言語学とは | 事前学習 | pp.192~194 を読み、理解する。 | | | | | | |
| | | 事後学習 | ワークシートに記入する。 | | | | | | |
| 第3回 | 2 敬語 I 尊敬語 II 謙譲語 1 III 謙譲語 2 | 事前学習 | pp.195~198 を読み、理解する。 | | | | | | |
| | | 事後学習 | ワークシートに記入する。 | | | | | | |
| 第4回 | 2 敬語 IV 丁寧語 V 美化語 | 事前学習 | pp.199~203 を読み、理解する。 | | | | | | |
| | | 事後学習 | ワークシートに記入する。 | | | | | | |
| 第5回 | 3 方言と共通語 | 事前学習 | pp.203~206 を読み、理解する。 | | | | | | |
| | | 事後学習 | ワークシートに記入する。 | | | | | | |
| 第6回 | 4 文法外のコミュニケーション行動 | 事前学習 | pp.206~210 を読み、理解する。 | | | | | | |
| | | 事後学習 | ワークシートに記入する。 | | | | | | |
| 第7回 | 5 コミュニケーション・ストラテジー | 事前学習 | pp.210~213 を読み、理解する。 | | | | | | |
| | | 事後学習 | ワークシートに記入する。 | | | | | | |

| | | | |
|------|---|------|-----------------------------|
| 第8回 | 6 言語接触 I ある言語が異なる言語に接触した場合 | 事前学習 | pp.213～217を読み、理解する。 |
| | | 事後学習 | ワークシートに記入する。 |
| 第9回 | 6 言語接触 II 一国内で異なるタイプのことばが接触した場合 III 外国人が話すことばと接触した場合 | 事前学習 | pp.217～220を読み、理解する。 |
| | | 事後学習 | ワークシートに記入する。 |
| 第10回 | これまでの社会言語学についてのまとめ | 事前学習 | これまでの社会言語学についてワークシートを見直す。 |
| | | 事後学習 | テーマについて考える。 |
| 第11回 | 社会言語学のテーマについて話し合い | 事前学習 | テーマについて分析する。 |
| | | 事後学習 | テーマについて原稿を作成する。 |
| 第12回 | 社会言語のテーマを決め、調査方法について発表 | 事前学習 | 原稿を読み、確認する。 |
| | | 事後学習 | 発表に向け、リハーサルを行う。 |
| 第13回 | 調査方法の結果発表 | 事前学習 | 原稿の再確認を行う。 |
| | | 事後学習 | フィードバックを参考に、改善点を提案する。 |
| 第14回 | 最終レポート提出準備 | 事前学習 | 発表やフィードバック、改善点を基にレポートを作成する。 |
| | | 事後学習 | 提出するレポートを読む。 |
| 第15回 | レポートについての評価・フィードバックを行う。 | 事前学習 | 提出したレポートについて考える。 |
| | | 事後学習 | レポートの評価について考える。 |